

急ぎ過ぎだよ 人類は。

ゆるやかなネットワークを目指す

ITより
逢いてエ

雑報 綴文

いろは差えがあつたら面白い
いろんな人がいるのが楽しい

No. 591

2021年7月

晩
柑

編集・発行 鈴木厚正

〒266-0005 千葉市緑区菅田町2-21-359

T&F 043-291-2917

ま・く・じ

- あの山の向こうに (135) 2
- 雑報つれづれ 5
- 戦争にならないようにするには 6
- 「八郷からの便り」「海をあげる」 8
- 『かがり火』それぞれの34年より 11
- 山仕事(6月、大平) 12
- お便利から 15
- コロナ日誌 23
- ニュース瞥見 25



会津三島町
桐原郷プレミアムチケット
5名分予約しました。

4500円(富田補助)+500円(買物・送料)が、2000円で買える。

+1名

7月13日現在の
会員数232名

この見本誌をみて新たに

「読んでみようか」という方は、

年会費 4,000円を

郵便局で 00100-2-20630

「雑報友の会」

へ 併い込んで下さい。

題 字 故 佐村隆英和尚 (千葉県長柄町本光寺住職)

カ ッ ト : 泉ゆきをさん (にっぽん箱絵の会会長)

印刷機 リソグラフ RZ 330

※ この号の切手は、遺贈品。

山仕事 (6月、大平)

6月9日(水)、晴。東海地方はとうに梅雨入りしたというのに、今日は晴天続き。

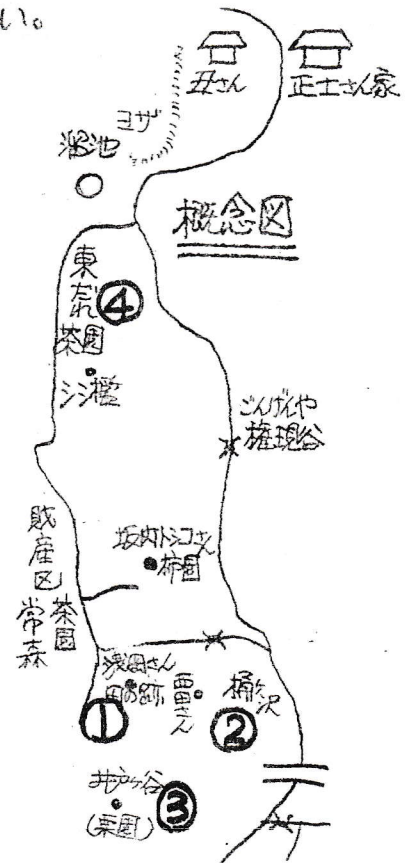
前夜、正士さんから電話があった。今回の作業予定と差し入れを数々を知らされる。電車が空いたところで原田、山崎さんに伝えようとしたら、二人はすでにラインとやらで詳しく知らされていた。(康江さんは、新幹線) 康江さんも久米さんもラインで結び、ぼくだけはずれ。さういえば、ほんだのテニス仲間もラインでつながり、こちらもぼくだけ別。まいいや。というわけで正士さん、これからは電車の中で教えてもらうので、ぼくに電話してくれなくてけっこうです。

敷地駅に着くと、正士、久米さんに握手で迎えられる。昨年、テニスをして握手することが無くなったので、嬉しい。やはりぼくはこちらの方がよい。

買い物のおと、浅岡さんの田んぼ跡①の草刈り。



山ちゃん(カメラは正士さん)



(夕食) 餃子(佐藤貞敏さんから、宇都宮の餃子)。

アジのなめろう(英ちゃん調理)、カツオの刺し身、シロウリ塩もみ、ニジンの燻製、ソラマシ、大根と干しエビの煮物、モズク、シロウガタケの醤油漬け(山ちゃん持参)に正士さんの手打ちそば(常陸秋そば)

と久米さんのだしとかえしで。今日、沢山の差し入れを頂いた。感謝。

- 佐藤貞敏さん: 宇都宮^{まさし}「正嗣」の餃子 →
- 伊藤和代さん: 食パン、総菜パン、菓子パン
- 浅岡さん } 地: 発泡酒とつまみ
- 西田さん } 元: 日本酒
- 伊藤恵一節之: ミニトマト
- 倉澤元雄さん: ブルーベリー
- 深谷孝さん: シシトマトいぶりがこ、饅重花の香
- 菅原歎一さん: 加計呂麻島のモズク(日本酒)
- 内田美智子さん: 饅重(山芋の皮は、水で使わず)



6月10日(木)、晴。朝、「出勤」してきた久米真吾さんの話。

「昨夜、帰宅したら、玄関の軒先に黒くて長いものがうねっている。ハビがツバヤの巣を狙っていたのです。傘で叩いたけれど仲々落ちない。どうやらヒナがやられたらしい。親鳥の姿は見えず、下に一羽のヒナが落ちていました。拾って巣に戻してやると、おびえていてすぐ巣から出てしまう。そこで網で囲ってやりました。ネコが入れるような高さで、親鳥は入れぬよう上は開いて」とのこと。

この種の扱いはいろいろな説があるが、羽根が黒くなりもうじきとべそうな感じということで、運がよければ助かるかもしれない、と善哉と思うことにした。

久米さんも参加して、昨日刈った浅岡氏の隣り、西田さんの土地①の草刈り。お二人とも一人暮らしのお年寄りの女性だ。正士さんは、自分たちのことだけでなく、こうして地域が荒れるのを防いでいる。



久米さん

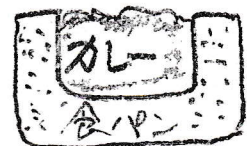
次いで、桶分沢②に移る。ぼくが刈っているところを見て、久米さんが心配した。ネジバナの群落があるという。ぼくは気がつかなかったが、ネジバナは残っていた。

ネジバナという、思い出すことがある。全農林関東農政局分会で二度目の執行部を担当したとき、一緒だったのが加瀬元樹さんだった。アンナさんのつれあひだ。あるとき、元樹さんが「育てていたネジバナを、誰かが持って行ってしまった」という。ネジバナなら畑に一杯あると拵っていたら、違ふという。ネジバナ(モジズリ)はらん科の植物で、ぼくが持って行ったのは科が違ふようだ。

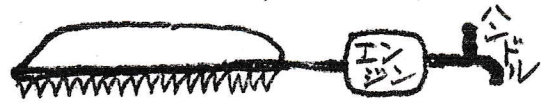
組合役員としてのぼくは、どちらかというとなアアの方だった。だが元樹さんは「駄目なものダウ」とは、きり言える人で、ぼくは何度も姿勢をただしたものだ。傍ら元樹さんは誌心があり、何度も手作りの詩集を送ってくれた。手書きの「自分誌」を発行し、各地にファンが居たようだ。神輿をかつくのが大好きで、仲間と各地の祭りにかつぎに出かけていた。退職後、残念なことに自転車にのっていて自転車事故に遭い、アンナさんの看病も及ばず亡くなった。葬儀の時は、新しい法被を着た男たちが、道に並んで見守っていた。ぼくは、元樹さんは数少ない江戸の子の一人だったと思う。

5Xも前より作業も早く、午前中に井戸谷の栗林③まで刈り終った。今年は花が沢山ついているので、インシにやられなければ、秋にはクリ拾いができそうだ。

(昼) カレーパン(食パンのかたまりをくりぬき、カレーを詰めてオープンで焼く)、王子とハムのサンドイッチ、野菜スープ、フルーツ(倉澤さんのブルーベリー、ヒストマト)



午後は東垂れ④で、ツツジの剪定と下刈り。園内の通路両側のツツジが伸びて道にかぶさってきたのを、英ちゃんが剪枝機で刈り込む。本来はお茶用の機械で、エンジンが付いてかなり重い。それを操作するには、英ちゃんのような体力が必要だ。それでもずいぶん疲れたことだろう。残るメンバーは、ツツジの間の下刈りとツツジにまきついたツルとリ。



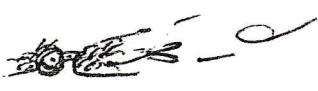
作業を終えて戻る途中、子鹿が道を横切った。カモシカは何度も見るが、当店でシカを見るのは初めてだ。

夕方、深谷さんが見え、一緒に夕食。

(夕食) アカイカ刺身(前回の残り)、山ちゃん、餃子、タコのマリネ、ナスのナムル、紀文の竹輪明太子詰め、キューリの甘酢漬、大根煮、白菜漬、冷奴、ジャンボニンニク(久米さんのお友達、中村フカさん栽培)とゲン煮におそば。



6月11日(金)、晴。久米さんによると、園の中のツバキは居なかったそうだ。どうやら親鳥がやって来てとび立ったらしい。久米さんが家を出る時、4羽のツバキが頭上を何度も巡回したそうだ。よかったですね。



作業は、昨日の続き。久米さんが運転する軽トラの荷台にのった英ちゃん



さんが、少しずつ移動しながら背の高いツツジを剪定する。山ちゃんもツツジの森に分け入り、下から無駄な枝やツル草をとり除く。正士さんとぼくは、刈払い機でツツジの先端を刈り揃える。

(お打ち) 6月5日、海場でホテルをみる会

(昼) フレンチトースト、総菜、菓子パン、内田さんのお饅頭、パプリカとズッキーニ炒め、トマトとタス。



次回、7/22~24。40日先だ。